

漁況海況予報事業（海洋観測調査）

本 永 文 彦

1. 目的および内容

沖繩近海（沖繩島南部沿岸、沖繩島北西方の黒潮流域）の海洋観測を実施し、海況データの収集を行うことによって海況の現況を把握する。また、情報交換推進事業における漁況予測へ結びつけるために、海況情報の蓄積を図ることを目的とする。

○ 1991年度（平成3年度）は、沖合定線を10回実施した。

2. 方法

調査定線は、沖繩島北西沖合（図1）および沖繩島南部沿岸定線（図2）の2定線で実施した。

○ 調査の実施状況、調査船の概要および観測項目については、表1、2、3、4に示した。

3. 結果

沿岸定線調査

沖繩島南部海域での観測結果からP-8~9、14~17の6点の平均値を求め、その値と平年からの偏差の季節変化は図3、4に示した。また、表面流況は図5に示した。なお、5、9、3月は時化のため観測を行っていない。

1991年4月15~17日：10~150mの各層で平年並みであった。表面流況は全体に北東流であった。

同年6月4~5日：10~50m層で平年並み、75~150m層で低めであった。表面流況は慶留間南沖合いで南流、喜屋武岬沖から久高島沖の沿岸寄りで南西流であった。

同年6月27~29日：10~75m層で高め、中でも10~15m層で1℃以上高めであった。表面流況は慶留間南で北流、その東で北東~東流であった。

同年7月22~23日：10~30m層で1℃以上高め、75~150m層で逆に1℃以上低めであった。表面流況は全体に反時計回りの流れであり、喜屋武岬沖がその中心であった。

同年8月5~6日：10~50m層で高め、中でも30~50m層で1℃以上高めであった。表面流況は全体に南西流であった。

同年10月15~16日：10~30m層でやや低め75m層で1℃高めであった。表面流況は不ぞろいの流れであった。

同年11月21~22日：10~50m層でやや低めであった。表面流況は全体に東よりの弱い流れであった。

同年12月3~4日：各層で平年並みであった。表面流況は不ぞろいの流れであった。

1992年1月27~28日：10~100m層でやや高めであった。表面流況は全体に南流であった。

同年2月12~13日：10~150mの各層でやや高めであった。表面流況は流れは弱いですが全体に時計回りであった。

沖繩島近海の表面水温

西日本海況旬報（長崎海洋気象台発行）より作成した沖繩島近海代表4点における表面水温偏差を図5、6に示した。久米島と沖繩島南部、北大東島西の海域では10~11月のやや低めを除けば高

め傾向で推移していた。与那国島北では6～7月に高め、10～11月と2～3月に低めであった。

沿岸定地水温

西日本海況旬報（長崎海気象台発行）より作成した沿岸定地水温の年間偏差を図7、8に示した。沖縄島と石垣島の2海域の沿岸水温は、5月と10～11月の年間並みを除けば全体に高めで経過した。

沖合定線調査

沖縄島北西の黒潮は、1991年6月5～6日にはSt. 9～10に強流域がみられ、黒潮逆流は久米島南に南流がみられた。同年8月6～8日の強流域は久米島北西方ではSt. 9～10に、伊江島北西方でSt. 3～5にみられ、黒潮逆流は伊江島北西方で東～南東流がみられた。1992年2月13～15日の強流域は久米島北西方ではSt. 9～10に、伊江島北西方ではSt. 3～6と幅広くみられた。黒潮逆流は伊江島北西方で南東流がみられた。

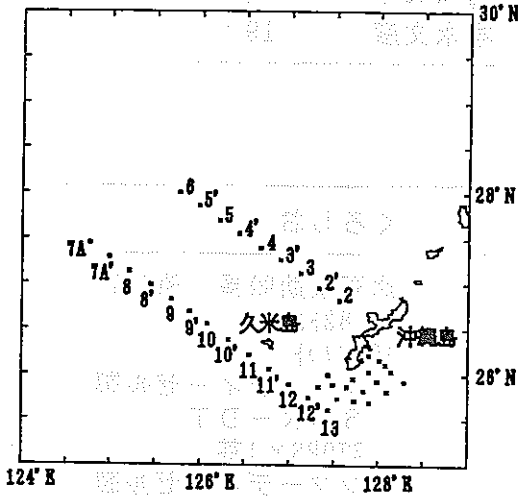


図-1 沖合定線定点図 (O)

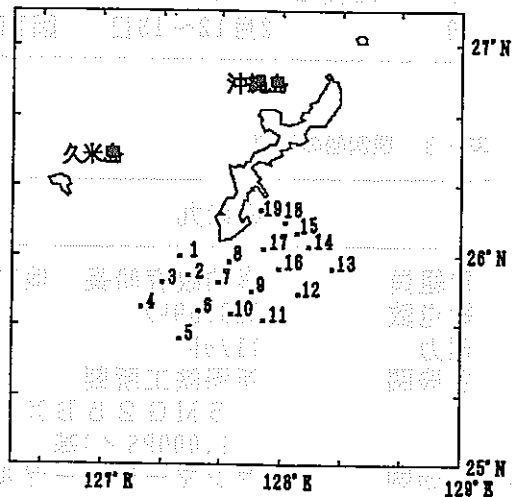


図-2 沿岸定線定点図 (P)

表-1 沖合定線調査実施状況

航次	実施年月日	船名	調査員	観測点数
1	1991年 6月 5~ 6日	函南丸	本永文彦	14
2	8月 6~ 8日	函南丸	本永文彦	22
3	1992年 2月 13~15日	函南丸	本永文彦	22

表-2 沿岸定線調査実施状況

航次	実施年月日	船名	調査員	観測点数
1	1991年 4月 15~17日	くろしお	横田森夫	19
2	6月 4~ 5日	函南丸	本永文彦	19
3	6月 27~29日	くろしお	横田森夫	6
4	7月 22~23日	函南丸	函南丸船員	19
5	8月 5~ 6日	函南丸	本永文彦	19
6	10月 15~16日	くろしお	横田森夫	14
7	11月 21~22日	くろしお	横田森夫	13
8	12月 3~ 4日	くろしお	横田森夫	17
9	1992年 1月 27~28日	くろしお	横田森夫	19
10	2月 12~13日	函南丸	本永文彦	19

表-3 観測船の概要

	函南丸	くろしお
乗組員	喜納政宥船長 他13名	比嘉永助船長 他4名
総屯数	216.09ト	34.82ト
速力	11ノット	10.8ノット
主機関	新潟鉄工所製 6MG25BX 1,000PS×1基	ヤンマーディーゼル製 6BN-DT 270PS×1基
補機関	ヤンマーディーゼル製 2KFL-T 185PS×2基	ヤンマーディーゼル製 3SML 2TL 38PS×1基 20PS×1基
測深機	鶴見精機製 TS-VS1型	本地郷製 HHW-2型
音響測深機	ワイヤー (2.1mm) 1,500m 日本無線製 (カラー) JFV-216	ワイヤー (2.3mm) 1,500m 古野電気製 (カラー) FVC-262
測位システム	日本無線製 ロランA・C	古野電気製 GPS GP-500

表-4 定線調査の観測項目

観測項目	沖合定線調査	沿岸定線調査
水温、塩分の各層観測	800mまでの計14層、7点	なし
DBT観測	800mまで、15点	800mまで、19点
表面流況観測(GEK)	22点	18点
一般気象海象観測	22点	19点

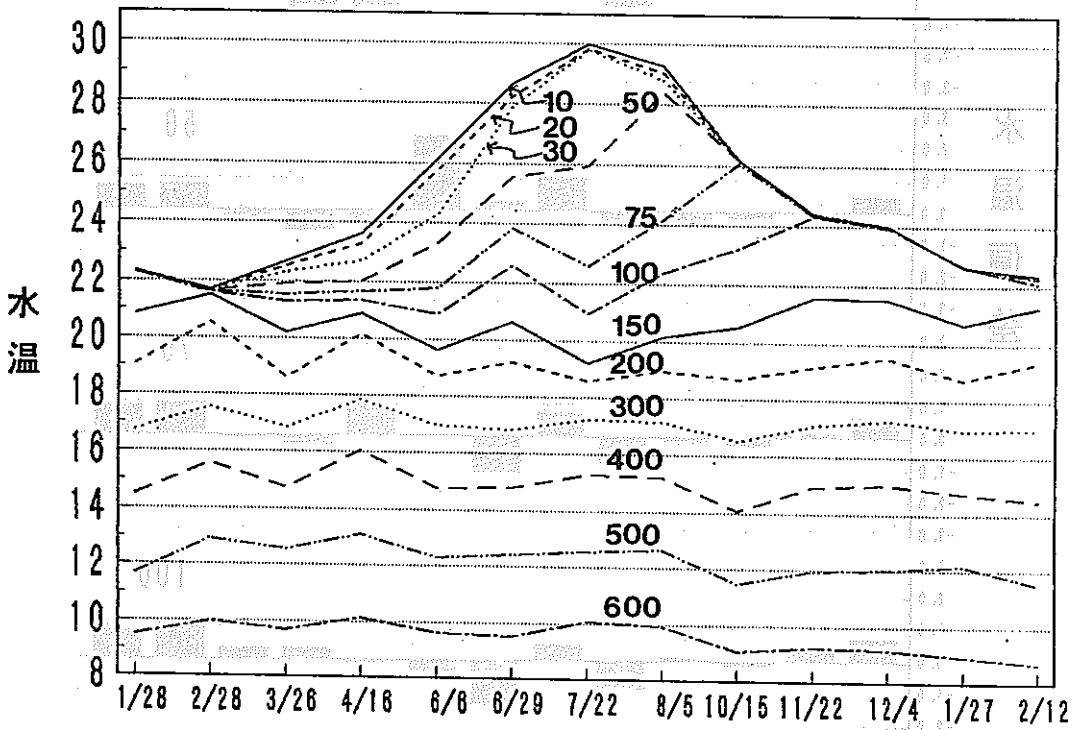


図-3 沿岸定線代表6点における水温の季節変化
1991年1月~1992年2月

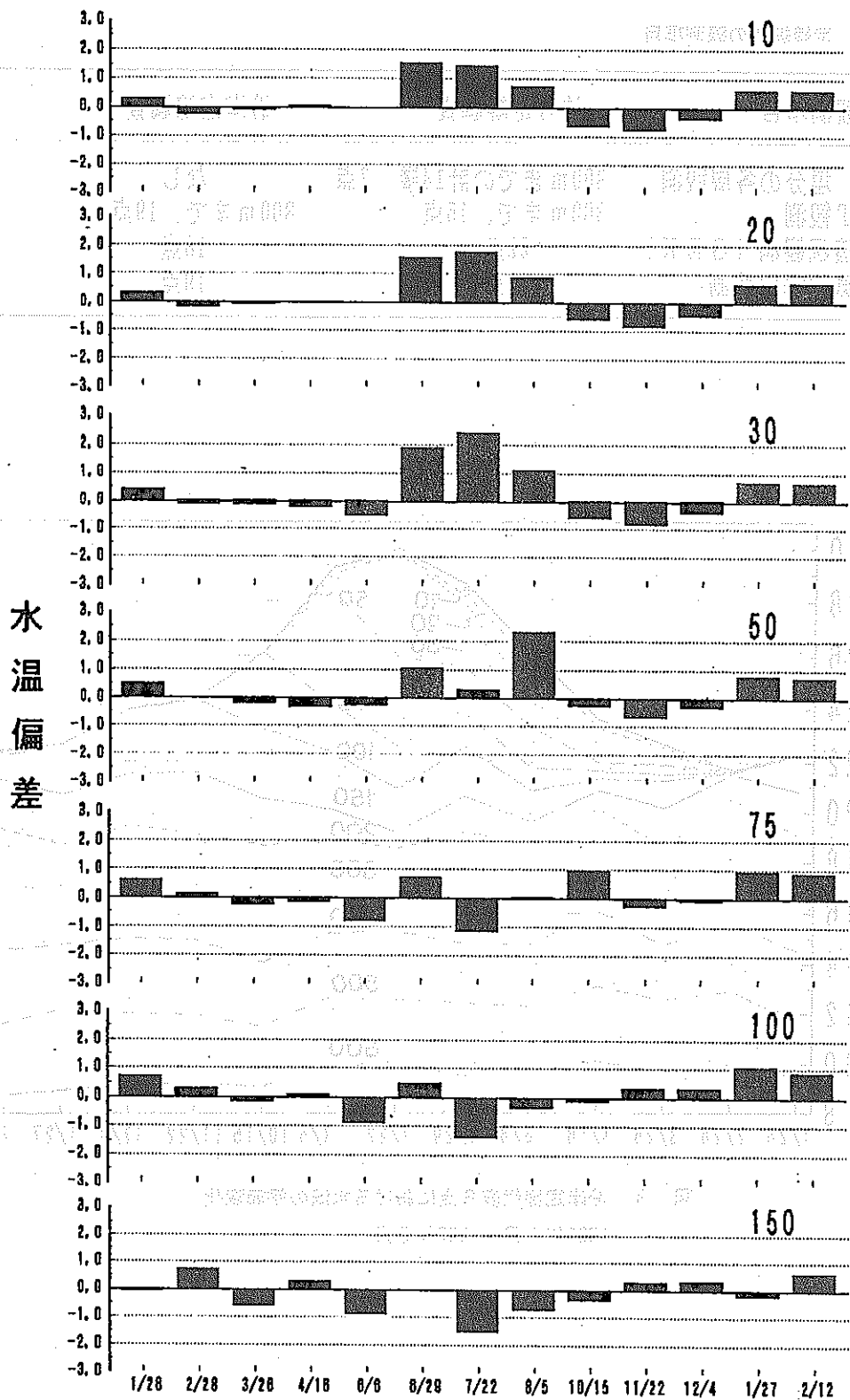


図-4 沿岸定線代表点における水温偏差の季節変化

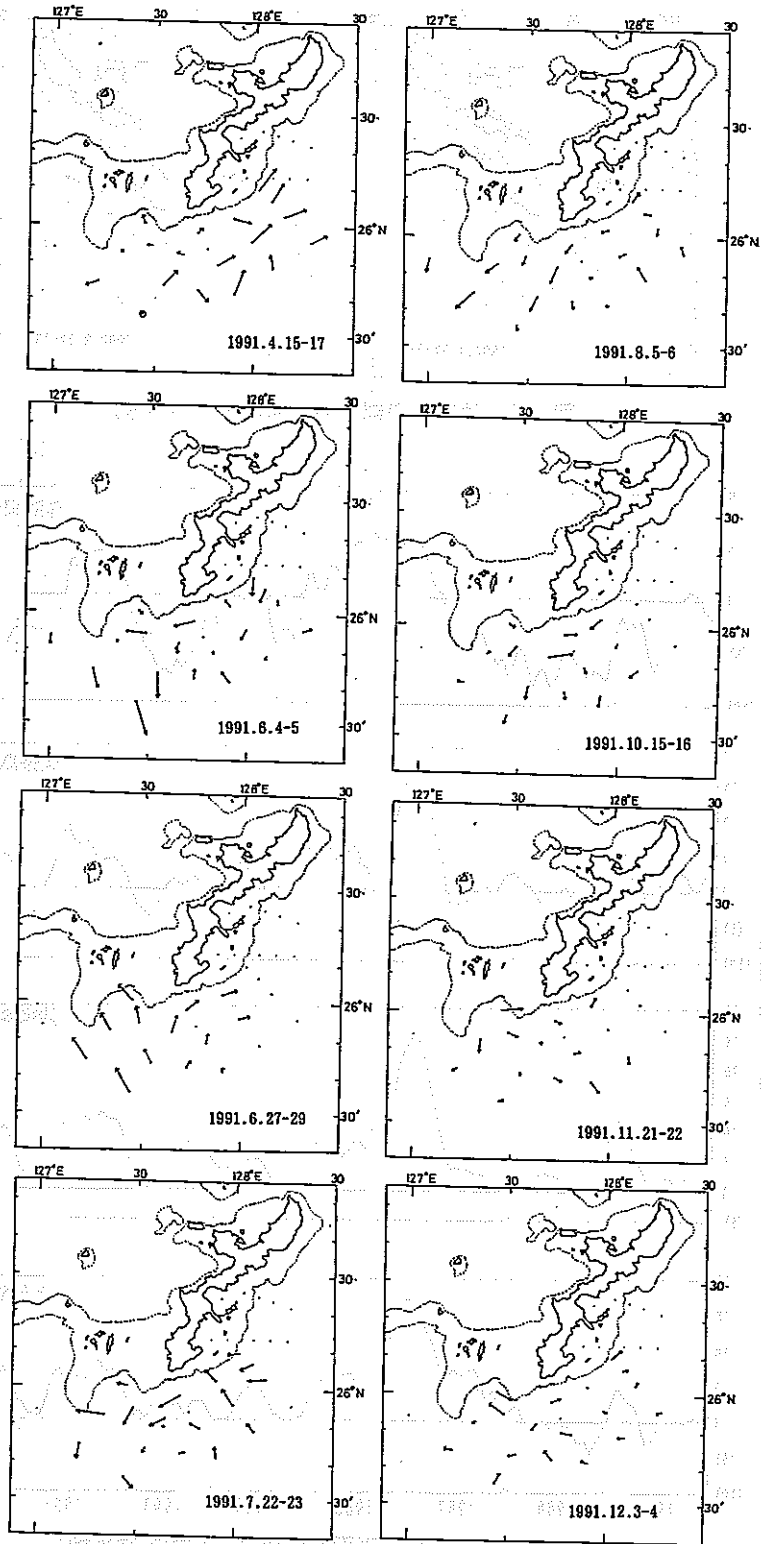


図-5 沖縄島南部での表面流況

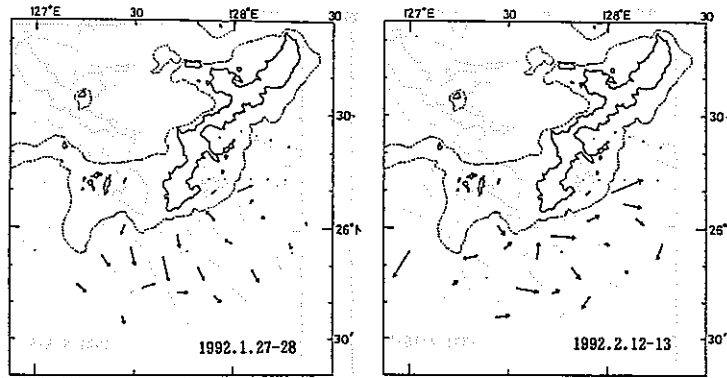


図-5 沖縄島南部での表面流況(つづき)

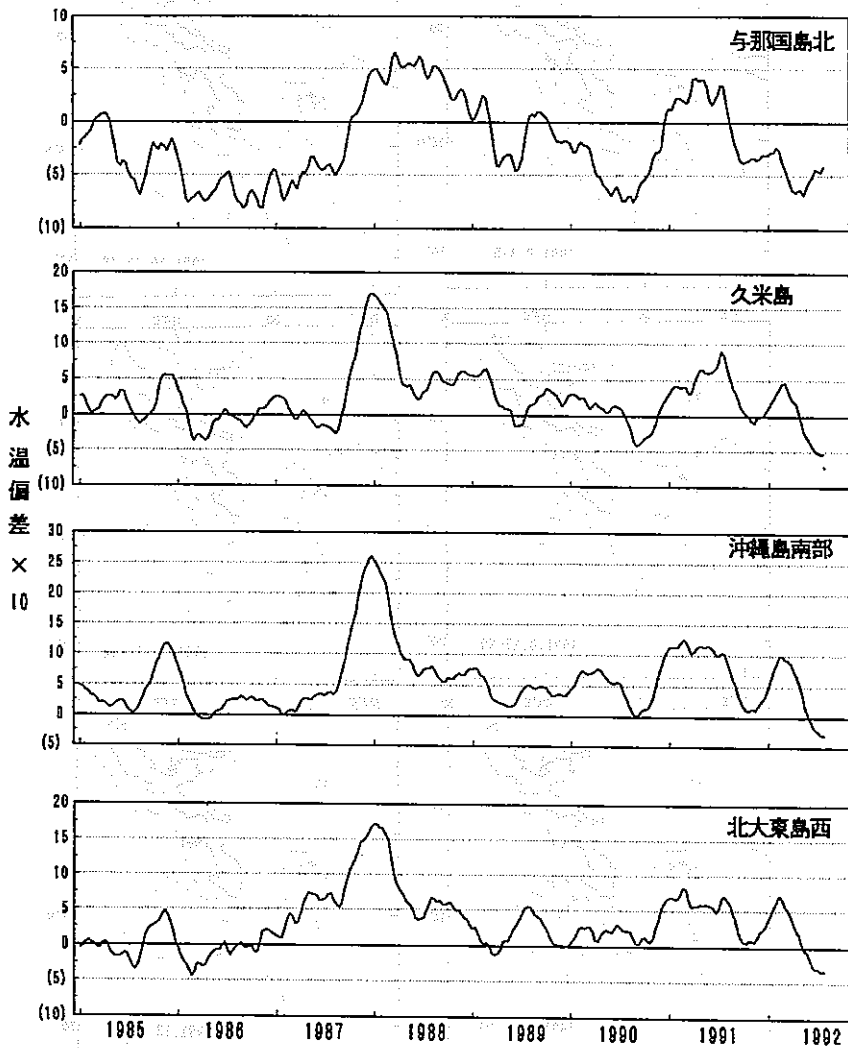


図-6 沖縄近海における表面水温偏差(12旬移動平均)

資料：西日本海況旬報(長崎海洋气象台発行)

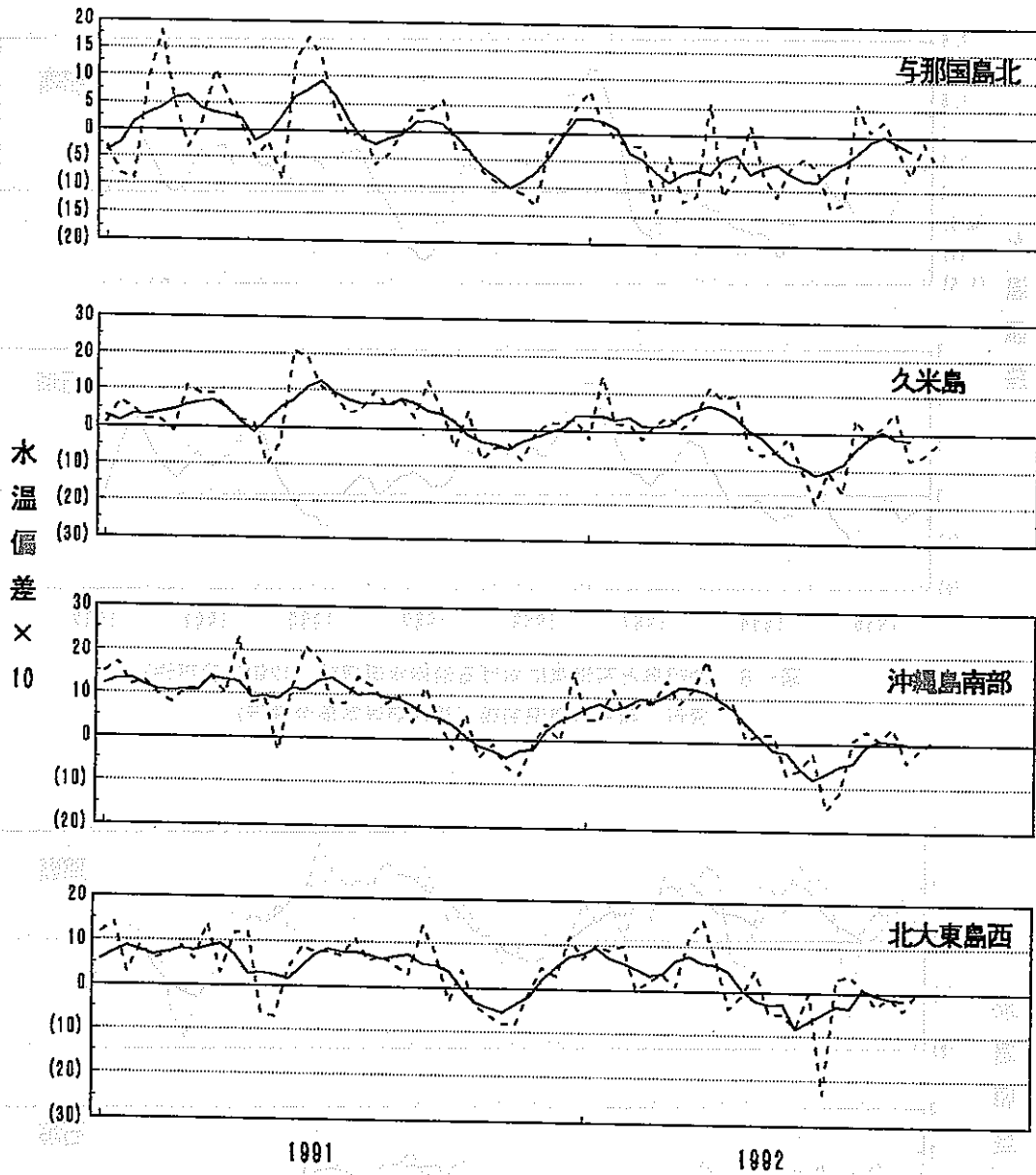


図-7 沖縄近海における表面水温偏差 (5旬移動平均)
資料：西日本海況旬報 (長崎海洋气象台発行)

3301

1107

(注) 本図は、長崎海洋气象台の観測データに基づき作成されたものである。

(注) 本図は、長崎海洋气象台の観測データに基づき作成されたものである。

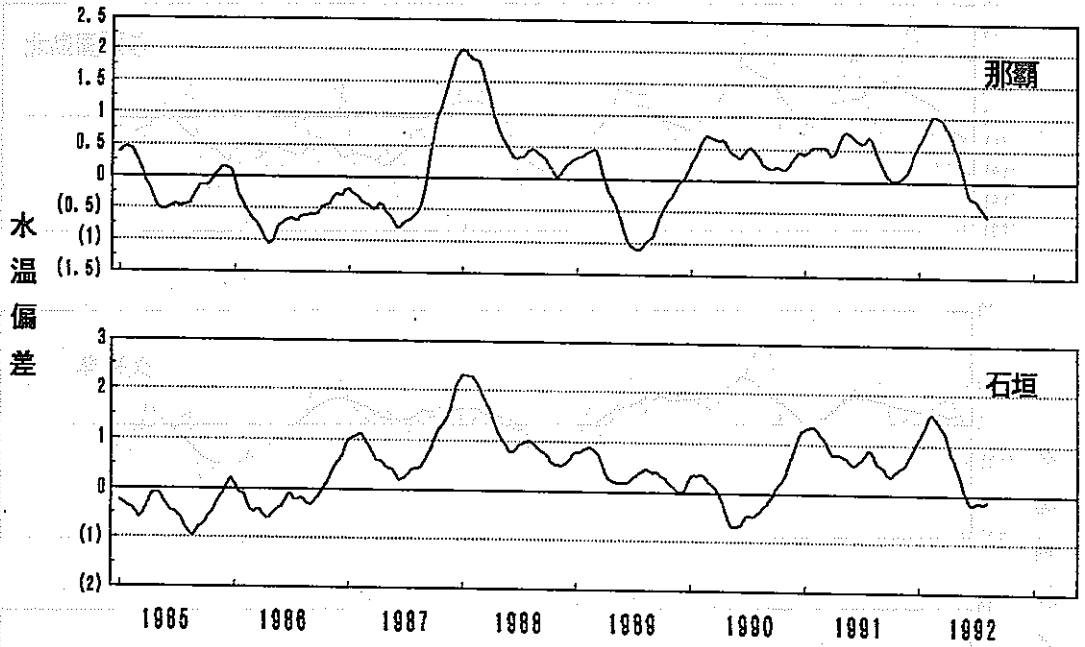


図-8 沖縄島と石垣島における沿岸水温偏差 (12旬移動平均)
資料：西日本海況旬報 (長崎海洋気象台発行)

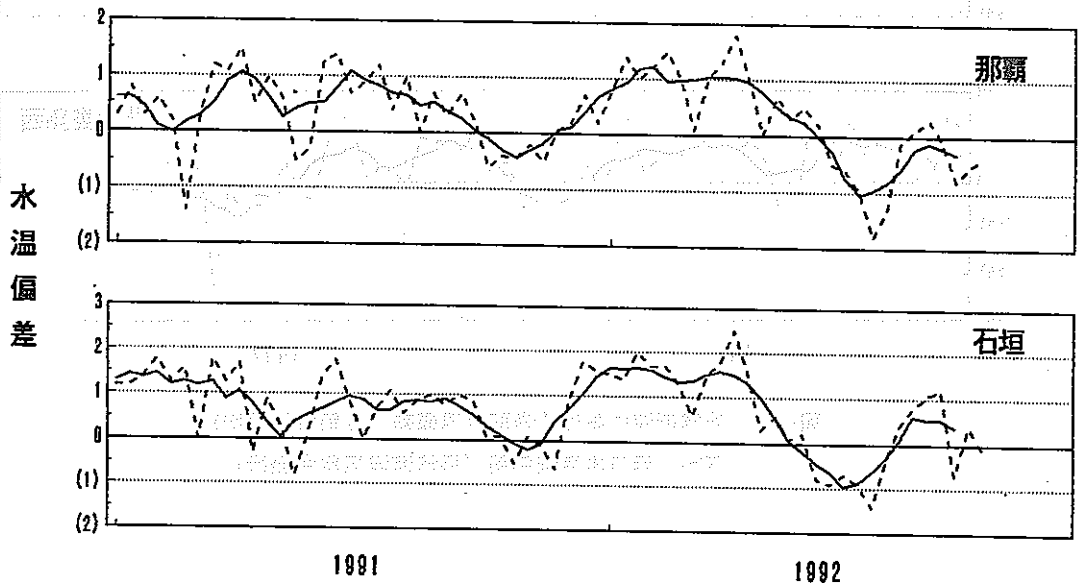


図-9 沖縄島と石垣島における沿岸水温偏差 (5旬移動平均)
資料：西日本海況旬報 (長崎海洋気象台発行)